

中高一貫教育等に係る懇談会（第2回）概要

1日 時：平成16年9月13日（月）午後1時30分～午後3時30分

2場 所：京都府公館第1会議室

3 配布資料：別添のとおり

4 主な意見等

委員から

- ・実際にどの地域に中高一貫教育を導入していくべきか、こういった形態が好ましいかなど具体的に検討していかなければならない。
- ・山城地域は現在再編整備の動きも絡み、それぞれの高校がより特色を出そうと頑張っている。そういったなかでこそ、より一層保護者や児童・生徒の中高一貫教育への期待感も高まっているのではないか。
- ・選択できる高校が多い京都市域周辺では、連携先の中学校は高校入学時点の選抜が有利であるというイメージから、連携先でない中学校の保護者の理解が得られるかが問題となる。連携先でない中学校の反発は大きいと思われる。
- ・連携型はあまり柔軟なイメージがないが、どのような手法があるのか。また、連携型でも中学校から高校に入学する際に他校へ入学しないような一定の制限が設けられるのか。
- ・関西文化学術研究都市は先進的企業も多く、海外からの帰国子女や研究者の子弟も多い。こうした国際色豊かな特色を活用した中高一貫教育ができれば面白い。
- ・京都らしい文化、伝統、国際感覚を養えるような中高一貫教育、またスポーツに特化した中高一貫教育もあっていいのではないか。
- ・中高一貫教育によって、都市部への生徒流出を防ぎ地域おこしにつながるような教育を行っていくべきだ。
- ・北部の中高一貫教育への期待は非常に大きい。保護者から見れば私学に比べ、公立中学校は授業料が無いというメリットがある。また、北部においては出口の問題も大きい。進路保障のしっかりとした中高一貫教育が必要である。中丹以北の中核校、そして都市部との窓口になるような中高一貫教育校が必要である。
- ・競争だけではなく、ゆとりもある一貫したポリシーのもとでの教育が必要である。
- ・社会人としての基礎をしっかり身に付けた人間らしい人間を育てるような中高一貫教育校も必要ではないか。
- ・地域のニーズにしっかり応えられるような中高一貫教育でなければならない。

- ・最低限、通学できる範囲に1校は必要である。
- ・中高一貫教育校にも、ある程度の特色は必要ではないか。
- ・連携型の場合、連携する中学校の通学区域をその市町村全域（区域外就学を認める）などにすれば、連携型が抱える選抜の問題（連携先中学校と連携先でない中学校の不公平性）はクリアできるのではないか。
- ・中高一貫教育を導入することで、結果的に競争が激化しないような配慮が必要である。
- ・洛北高校とはまた違ったスタイルも必要である。京都の長い歴史を活かすべきである。府内には伝統工芸の職人を目指すための取り組みを行っているような地域があり、そこには全国各地から職人を目指す人々が集まってきている。今後そういった部分に価値を見いだす子供たちが増えるのではないか。
- ・保護者が私立中学に持っている期待なども十分に分析し、把握せねばならない。
- ・北部から見れば洛北サイエンスという思想は大変魅力があり、うらやましく感じる。
- ・児童が行きたいと思う中学校を選ぶためには、小学校で基礎、基本の学力をしっかりと身に付けさせることが重要であるし、小学校段階での進路指導を充実させるためにも選択肢を増やしてあげることも必要ではないか。
- ・南北に長い京都府においては、地域的バランスは非常に大切である。
- ・併設型については、高校の施設面のゆとりも十分留意する必要がある。
- ・連携型の場合、府と市町村の間でしっかりと目指すべきところを話し合わなければならない。
- ・中高一貫教育を導入する際には具体的なイメージを持って、それが既存の小、中、高校にどのような影響を与えるかを十分に検討する必要がある。特に併設型については、私学や既存の公立中学校との関係に留意することが重要だ。
- ・中高一貫教育を導入したときに、その地域の既存の中学校にも活力を与えるようなものが理想である。中高一貫教育校だけのものとしてはいけない。

府教委から

- ・都市部の連携型では、中学校入学時点でその特色に魅力を感じその学校を選択するという観点から、ある程度特色を強く出した高校での中高一貫教育が必要ではないか。
- ・連携型にも様々なパターンがあり、中学校の特定の学級が高校と連携する場合や、複数の中学校と複数の高校が連携するなどもありえる。他府県では連携先の中学校において通学区域指定をなくし、広い地域から通学できるようにしている例もある。
- ・中高一貫教育においては特色あるカリキュラムの編成という点で他の高校を志願しづらいという部分はあるが、連携型も併設型も他の高校を志願することを制限することはない。要は生徒が他の高校を志願しないよう、魅力ある中高一貫教育を展開するための学校の努力が大切である。